



北海道トラック協会の役員を前に娘爽と登場する片山さつき参議院議員



伊藤昭人北海道トラック協会会長(右)と握手を交わす片山氏

片山さつきと トラック協会の 意外な縁

参議院議員

「2010年の参議院選挙では、北海道でも多くの運送業界票をいただいた」
7月23日、北海道トラック協会主催のセミナーに片山さつき参議院議員が登壇、関係者を前に講演した。

片山氏と運送業界の出会い、05年の郵政選挙で静岡7区から「刺客」として出馬、初当選を果たしてからのこと。地縁のない中で大須賀正孝静岡県トラック協会会長が、後援会会長に手を挙げてくれたという。

09年の衆院選落選後、10年の参院選では全日本トラック協会の後押しで比例区から国政に復帰。片山氏は自民党トラック輸送振興議員連盟の事務局長代行として政府と業界との橋渡しをしている。この日の講演では「燃油高や環境対策など課題は山積みだが、各地域の意見を国政に反映させたい」と「蜜月」ぶりをアピールしていた。
(清水)

写真●本誌・亀岡一雄



拓銀破綻

「北海道には特別な思いがあるんです」と語るのは、参議院議員の片山さつきさん（写真）だ。



片山さんは7月23日におこなわれた北海道トラック協会主催のセミナーにゲストとして登壇。自身と運送業界とのかかわりや今後の政治情勢について講演した。

「1996年から98年まで、当時の大蔵省銀行局に勤めて

いた際に、北海道拓殖銀行の破綻を目の当たりにしました。そのころは95年に発覚した住宅金融専門会社の不良債権処理問題で国会が空転し、政治家や官僚が更迭されるという今までにない事態。金融問題が政局と直結していました」

当時は自民党、社民党、新党さきがけの連立政権から自民党政権に代わるころ。不安定だったことも影響していたという。

「地域経済の根幹を担う銀行は、その規模にかかわらず潰してはいけなかったんです。北海道は本州に比べて歴史が

浅いから、当然地域の資本蓄積は少ない。金融的な地盤自体が弱かったわけです。だからなおさら拓銀は破綻させるべきではなかった。でも与野党の政治家どちらも金融問題についてリスクをとりたがらなかったし、不勉強でした。銀行を救うための関連法律すら、整備されてなかったんです。そういう状況下で、結果的に500万人以上が住む北海道経済は、壊死させられました」

今でも北海道に来るたびに当時のことを思い出すという。「私にとって、あの時の金融問題が本当の意味で終わるのは、地方版アベノミクスを北海道経済が牽引するまでに成長した、その時ですね」

快気祝い

「現在の安倍政権は非常に傲慢で、驕り高ぶり、欺瞞に満ちているという意見はまったく同じでした」と話すのは連